

昭	昭	至白	年	承德陸軍病院（関東軍才五九陸軍病院）略歴 通称号 満第一四部隊、強第一三三三四部隊
17	20		月	
12	8	8 8	日	
	9	1513		概要
				要
				摘要

熱河省承德所在の錦州陸軍病院承德分院の人員を基幹として承德陸軍病院を編成

爾後所在部隊（特に熱河討伐隊）の患者の収療に任じていた。

日「ソ」開戦と共に歩兵第二四〇連隊長中村大佐が熱河支隊長となり病院はその指揮下に入る。

輸送に耐える患者全員を錦州陸軍病院に転送

軽症患者約二〇名 原隊に復飯

爾後自衛戦闘準備に専念した。

第一〇八師団の後退に伴ない準備していた衛生隊の編成を中止した。

支隊長の命により衛生材料、襪、弾薬等一切を携行して歩兵第二四〇連隊に合流

0153

	10	9	9
	25	15	11
院長 軍医中佐 樋代利治	黒河経由人「ソ」	承德出発	同日承德において武装解除 承德第五作業大隊に編入

0154

昭 20													年 月 日	通称号 敏第二五三〇一部隊	
9	1	10	10	8	8	8	8	8	8	8	7	7			概 要
12	8	17	16	22	21	20	18	15	13	10	9	30	28	特臨編第五三号により編成下令 間島省延吉において編成完結 日「ソ」開戦 延吉出發、梅河口に移動途中吉林において新京防衛の命をうけ新京に移動 吉林省新京着 新京において停戦 新京出發 公主嶺に到着 現地応召者を召集解除 主力は公主嶺において、一部は四平において武装解除 公主嶺第一三作業大隊に編入 公主嶺出發 黒河經由入「ソ」 四平において武装解除した一部の者は四平第一二、第一四作業大隊等に編入せ	

第三〇軍司令部略歴

0155

昭 14													年 月 日	略 歴					
至 自																			
6	5	5	5	5	4	4	4	4	2	2	1	12	10	10	10	8	6	<p>通称号 藤才六八六四部隊</p> <p>歩兵第二三一連隊略歴</p>	
7	31	30	17	16	11	10	23	22	13	7	25	21	22	20	25	19	8		1
<p>至 自</p> <p>湖北省武昌および漢陽着、同日より同地付近の警備並に戦闘に参加。</p> <p>湖北省京山県多宝湾鼎家場および黄陂県夏店付近の戦闘に参加。</p> <p>移駐のため漢口出発。</p> <p>湖北省夏店、および黄陂県河口鎮着、同日より同地付近の警備。</p> <p>湖北省黄安県七里坪檀樹崗付近の戦闘に参加。</p> <p>宜昌作戦参加のため河口鎮駐屯部隊同地出発、夏店駐屯部隊は二十三日出発。</p> <p>混山付近の戦闘に引続き棗陽北方に向う追撃戦に参加。</p> <p>西部大洪山系の掃蕩作戦に参加。</p> <p>王家県付近の戦闘参加。</p> <p>漢水渡河作戦および湖北省荆門付近の戦闘に参加。</p>													摘 要						

0159

	10	9
	18	16
連隊長 大佐 福永 勇吉	黒河 経由 入「ソ」。	四平 出 発。

0161

		昭 至 自		至 自 昭		至 自 昭		昭		年 月 日	歩兵第二三二連隊略歴																
		18		16		15		14																			
7	7	5	10	10	4	2	1	12	12			11	11	10	10	10	8	6									
1	1	1	21	1	16	26	23	16	10	20	12	11	18	9	1	30											
		編成改正完結。		軍令陸甲才三六号により臨時編成（編成改正）下令。		長沙作戦に参加。		湖北省沙市に移駐。		予南作戦に参加。		萬城着、同日より同地付近の警備。		移駐のため黄家集出発。		漢水作戦に参加。		湖北省荆門県黄家集着。同日より同地付近の警備。		湖北省漢口上陸、同日より同地付近の警備。		字品港出発。		広島において歩兵才四二連隊補充隊の人員を基幹として編成完結。		軍令陸甲才二一号により編成下令。	
										略	歴	摘要															

0162

至 自 至 自 至 自							昭 20	
9	9	9	9	8	8	7	7	4
27	18	13	10	10	21	27	22	12
<p>移駐のため湖北省当陽出發。</p> <p>滿支国境(山海関)通過。</p> <p>主力は滿洲公主嶺着。</p> <p>主力は四平において武装解除。</p> <p>作業才六、才七、才八大隊等に編入。</p> <p>四平出發。</p> <p>黒河經由入「ソ」。</p> <p>連隊長 大佐 山田正吉</p>								

至 自 至 自 至 自 至 自 至 自 自														昭 14		年 月 日	歩兵第二三三連隊略歴 通称号 藤才六八六部隊		
至 自 至 自 至 自 至 自 至 自 自														昭 15				略	歴
7	6	6	5	5	5	5	4	4	2	1	12	10	10	10	10				
10	8	7	3	13	17	16	11	10	21	20	20	31	20	25	24	20	10	1	30
湖北省当陽付近戦闘および宜昌に向う追撃戦並に東方機動による八角沱付近														軍令陸甲才二一號により編成下令。		略	歴		
漢水渡河作戦に参加。														広島において歩兵才四二連隊補充隊の人員を基幹として編成完結。					
王家集付近の戦闘参加。														宇品港出帆。					
西部大洪山系掃蕩戦参加。														湖北省黄冈県陽邏上陸、同日同地付近の警備ならびに作戦参加。					
王家集付近の戦闘参加。														陽邏出発。					
漢水渡河作戦に参加。														湖北省黄冈県柳子港着、同日より同地付近の警備。					
王家集付近の戦闘参加。														湖北省京山県多宝湾聳家場および河口鎮付近の戦闘に参加。					
漢水渡河作戦に参加。														湖北省新洲に移駐、同日より同地付近の警備。					
王家集付近の戦闘参加。														宜昌作戦のため新洲出発。					
漢水渡河作戦に参加。														混山付近の戦闘に引続き襄陽北方に向う追撃戦に参加。					
漢水渡河作戦に参加。														西部大洪山系掃蕩戦参加。					
漢水渡河作戦に参加。														王家集付近の戦闘参加。					
漢水渡河作戦に参加。														漢水渡河作戦に参加。					

摘要

0164

至	自	至	自	至	自	昭	至	自	至	自	昭	至	自	至	自				
						20					18				16				
9	9	9	9	8	8	7	7	7	5	7	5	10	10	7	1	1	1	1	1
27	18	13	10	10	21	20	下旬	中旬	22	21	1	1	31	1	10	26	22	30	13
<p>の警備</p> <p>漢水作戦に参加。</p> <p>予南作戦に参加。</p> <p>湖北省当陽および荆門泉堰刀石に移駐、同日より同地付近の警備。</p> <p>長沙作戦に参加。</p> <p>軍令陸甲才三六号により臨時編成（編成改正）下令。</p> <p>編成改正完結。</p> <p>移駐のため当陽および荆門を出発。</p> <p>滿支国境山海関通過。</p> <p>四平省揚木林着。</p> <p>陽木林において武装解除。</p> <p>作業才六、才七、才八、各大隊に編入。</p> <p>四平出発。</p> <p>黒河經由入「ソ」。</p>																			
<p>連隊長 大佐 富 永 一</p>																			

二十
内

連隊長 中佐 佐野 芳 蔵

至自至自自														至自至自				昭	年 月 日	工兵第三九連隊略歴
昭														昭				昭		
20														18 15				14		
8	8	7	7	7	7	5	5	7	6	5	6	2	7	4	10	10	8	6	<p>通称号 藤才六八六九部隊</p> <p>略 歴</p> <p>摘要</p>	
20	13	23	10	18	7	20	12	1	25	1	下旬	15	10	13	19	8	1	30		
<p>軍令陸甲才二一号により編成下令。</p> <p>工兵才五連隊補充隊の人員を基幹として広島において編成完結。</p> <p>宇品港出帆。</p> <p>湖北省漢口上陸。爾後湖北省内各地の警備ならびに戦闘に参加。</p> <p>宜昌作戦に参加、同作戦後湖北省荆門に移駐、同日より同地付近の警備。</p> <p>宜昌付近の警備。</p> <p>軍令陸甲才三六号により臨時編成（編成改正）下令。</p> <p>湖北省当陽界河溶鎮に移駐、同日より同地付近の警備。</p> <p>編成改正完結。</p> <p>移駐のため河溶鎮出発。</p> <p>滿支国境山海関通過。</p> <p>通化省朝陽鎮着。</p> <p>四平省揚木林に移動。</p> <p>四平において武装解除。</p>																				

	9	9	9
	25	15	12
連隊長 中佐 今井 洗	黒河経由入「ソ」。	四平出発。	作業大隊に編入。

		10 9
		18 10
	隊長 大尉 和田 外喜雄	黒河経由入「ソ」 四平出発。

0171

至 自 至 自 至 自 昭 昭 昭 昭													年	月	日	略 歴	摘 要		
20 18 17 15 14																			
9	9	8	8	7	8	6	5	5	7	5	8	1	10	10	8	6	通称号 藤才六八七一部隊 輜重兵第三九連隊略歴	軍令陸甲才二一号により編成下令。 輜重兵才五連隊補充隊の人員を基幹として広島にて編成完結。 宇品港出帆。 湖北省漢口上陸、同日より同地付近の警備ならびに輸送業務。 湖北省当陽に移駐、同日より同地付近の警備ならびに輸送業務。 湖北省当陽陽鵝嶺に移駐。 軍令陸甲才三六号臨時編成（編成改正）下令。 編成改正完結。 移駐のため先発として連隊本部、第一中隊は鵝嶺出発。 満支国境（山海関）通過。 海龍着、同地において後発隊を待つうち日ノ開戦となり四平街に移動。 四平街に集結。 四平街に集結。 作業才四大隊編成。	略 歴 摘 要
12	10	20	3	3	1	2	5	14	10	1	1	17	19	8	1	30			

	10	9
	30	25
<p>連隊長 大佐 田 中 昇^昇 三</p>	<p>後発自動車部隊の才二、才三、中隊は転進中北支新郷付近において終戦となり 所在部隊に合流した。</p>	<p>四平街出発。 黒河経由入「ソ」。</p>

0173

		至自至自		昭 昭		昭		昭		年 月 日	略 歴	通称号 藤才六八七二部隊	第三九師団兵器勤務隊略歴
		20		18	17	15			14				
8	8	7	7	7	5	7	5	10	4	10	10	8	6
23	14	下旬	中旬	中旬	中旬	1	1	29	22	19	8	10	30
		四平において武装解除。		四平に移動。		四平省海竜着。		滿支国境山海関通過。		移駐のため当陽出發。		編成改正完結。	
		軍令陸甲才三六号臨時編成（編成改正）下令。		当陽県当陽に移駐。		同作戰後湖北省荆門に移駐、同地付近の警備ならびに師団管下の兵器業務。		宜昌作戰参加。		漢口上陸、同日より同地付近の警備。		宇品港出發。	
		歩兵才一一連隊補充隊の人員を基幹として広島において編成完結。		軍令陸甲才二一号により編成下令。									
		摘要											

0174

第三九師団野戦病院略歴												
通称号 藤才六八七四部隊												
年月日												
昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
6	3	7	5	5	7	5	7	5	7	5	7	6
30	5	20	3	10	1	3	1	1	1	3	1	30
軍令陸甲才二一号により編成下令。												
広島において編成完結。												
宇品港出發。												
漢口上陸。												
湖北省河口鎮にて病院開設。												
宜昌作戦参加のため山田少佐以下四〇名黄陂に移動。												
荆門着。												
湖北省当陽に移駐。												
軍令陸甲才三六号により臨時編成（編成改正）下令。												
編成改正完結。												
移駐のため当陽出發。												
滿支国境山海関通過。												
四平省海龍に到着、師団命令により野戦病院を開設。												
略												
提要												

至自至自						
12	11	10	10	8	8	8
1	20	5	1	21	12	11
<p>海龍出發。</p> <p>四平に到着、四平省立病院において病院開設。</p> <p>四平において武装解除。</p> <p>作業大隊編成。</p> <p>四平出發。</p> <p>黒河經由入「ソ」。</p> <p>病院長 軍医少佐 城島 実</p>						

0177

第三九師団病馬廠略歴														
通称号 藤才六八七六部隊														
略歴														
摘要														
昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
14	15	15	17	18	20	20	29	31	1	1	1	1	1	1
6	4	4	7	7	7	7	9	10	10	10	11	11	11	11
下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬
軍令陸甲才二一号により編成下令。	廣島において編成完結。	宇品港出発。	漢口上陸。	湖北省黄陂着。同日より同地付近の警備。	宜昌作戦参加。	湖北省荆門に移駐。同日より荆門付近の警備。	長沙作戦参加。	当陽に移駐。	軍令陸甲才三六号により臨時編成(編成改正)下令。	編成改正完結。	当陽出発。	満支国境山海関通過。	吉林省海龍着。	

	至自至自至自自
	12 11 12 9 10 9 8 8 8
	上中 12 15 旬 旬 24 7 26 10 12
<p data-bbox="885 712 925 1093">廠長 大尉 山村 節 雄</p>	<p data-bbox="1220 660 1257 824">四平に移動。</p> <p data-bbox="1161 660 1198 967">四平において武装解除。</p> <p data-bbox="1106 660 1142 855">作業大隊編成。</p> <p data-bbox="1050 660 1086 766">黒河着。</p> <p data-bbox="994 660 1031 795">入「ソ」。</p>

昭 20		年 月		日	
8	8	7	6	6	4
9	5	10	18	15	18
1	2	4	4	15	16
<p>歩兵第二七五連隊略歴</p> <p>通称号 満第五六部隊英機第一五二三六部隊</p> <p>概 要</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令 黒河省法別拉において第一三国境守備隊を基幹として編成完結。爾後同地付近国境地区の警備 黒河省瑗瑯に移駐のため法別拉出発 瑗瑯着 通化省通化に移駐のため瑗瑯出発 通化着 軍令陸甲第一〇六号により編成改正下令 通化において編成改正完結。歩兵第二七六連隊および歩兵第三八八連隊に各々約五〇〇名その他司令部挺進大隊に転出しその不足人員は在満現地応募者をもつて充足した。爾後同地付近において陣地構築。 第一大隊(第二中隊を除く)は柳河地区に配備したが停戦により八月二十日通化に復帰し爾後主力と同行動した。 第二中隊は四平省八宝付近の警備中停戦となり八月二十七日八宝より通化に復</p>					
摘要					

0181

至	自	至	自	至	自
9	9	9	9	8	8
26	25	18	5	1	30
<p> 帰、爾後主力と同行動。 通化において武装解除現地応召者の大部は召集解散 吉林省吉林に集結 主力は吉林において吉林第二〇七、第二〇八、作業大隊を編成 黒河經由入「ソ」 </p> <p style="text-align: center;"> 連隊長大佐 瀬川 正 雄 </p>					

		年 月 日		昭 20	
		9	9	8	8
		26	19	29	15
		18	20	26	10
<p>隊長 大尉 杉原 国夫</p>		<p>通称号 英機第三七八〇三部隊</p>			
		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>通化省通化において歩兵第二七五連隊、第一二五師国通信隊及工兵第一二五連隊からの転入者を基幹とし、^現地応召者をもつて編成完結。爾後本部および第三中隊は通化に、第一中隊を孤山子に、第二中隊を五道溝に、各々配備し陣地構築停戦により第一、第二中隊は本部に合流。</p> <p>通化（通化師範学校）において武装解除現地応召者の大部は解散。</p> <p>通化出発</p> <p>吉林に集結</p> <p>吉林第二〇七作業大隊に編入</p> <p>吉林出発</p> <p>黒河經由入「ソ」</p>			
		<p>概要</p>			
		<p>摘要</p>			

0185

至 自					至 自					昭	年 月 日	野砲兵第一二五連隊略歴 通称号 英機第三九八〇四部隊	
9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8			7
15	15	9	15	1	30	20	25	23	15	5			10
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令 通化省通化において在滿各隊よりの転入者を基幹として在滿現地応召者をもつて編成完結。爾後通化北方五道溝、柳河鎮付近において陣地構築。 停戦。爾後現地応召者の大部は解散。 通化において武装解除 主力は列車輸送により通化出発 吉林に到着後豊満ダムの破壊作業に従事。連隊長の指揮する一二四名は馬輪送のため八月三十日通化出発約二週間後吉林に到着した。 吉林第二〇三、第二一一作業大隊に編入 吉林第二〇三作業大隊に編入された者は吉林出発 黒河経由入「ソ」 吉林第二一一作業大隊に編入された者は吉林出発</p>											概	要	摘要

0186

57602

	昭
	21
	4
	20
	璦 春 経 由 入 「ソ」
連 隊 長 少 佐 横 山 秋 蔵	

0187

工兵第一二五連隊略歴

昭 20											年 月 日	概 要	
9	9	9	8	8	8	8	7	7	7	2			1
15	9	1	23	20	15	5	10	12	8	20	16		
<p>軍令陸甲第九号により編成下令 第七、第一三國境守備隊の人員をもつて山神府において第一二五師団工兵隊を編成。爾後同地付近の警備</p> <p>通化に移動、爾後同地付近の警備</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成改正下令</p> <p>通化において在満応召者と第一二五師団工兵隊の人員をもつて工兵第一二五連隊を編成。</p> <p>停戦</p> <p>通化において武装解除</p> <p>同日吉林省吉林に集結</p> <p>吉林第二〇三作業大隊に編入</p> <p>吉林出発</p> <p>黒河經由入「ソ」</p>												<p>通称号 英機第一五二三九部隊満第二六五部隊</p>	<p>摘要</p>

										昭 20	
										年 月	
										日	
										2	1
										15	9
										15	9
										1	30
										8	27
										8	20
										8	15
										6	17
										20	20
										16	16
第一二五師団通信隊略歴											
通称号 英機第一五二四二部隊 満第四八二部隊											
概要											
要											
摘要											
<p>軍令陸甲第九号により編成下令 黒河省神武屯において第五七師団通信隊および第七、第一三国境守備隊の人員 をもつて編成完結。 通化省通化に移駐。爾後同地において通信業務および陣地構築 停戦 同地において武装解除 通化出発 吉林省吉林に集結 吉林第二〇三作業大隊に編入 吉林出発 黒河経由入「ソ」</p>											
隊長 大尉 近藤 豊信											

0190

昭		昭		年	
21		20		月	
4 9 9 8 8		8 7		日	
20 15 3 23 15		5 10			
<p>昭21年4月9日、9日、8日、8日、</p> <p>昭20年8月7日、5日、10日</p> <p>間島省琿春經由入「ソ」</p> <p>吉林着。同地において吉林第二一一作業大隊に編入、同日吉林出發</p> <p>吉林省吉林着。一部馬輸送のため九月一日通化出發</p> <p>通化において武装解除。部隊の大部は列車輸送にて通化出發。</p> <p>通化において停戦現地応召者の大部は解散</p> <p>して在満応召者をもつて編成完結。爾後同地付近の警備。</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>通化省通化において第六三師団輜重隊および在満各部隊よりの転入者を基幹として在満応召者をもつて編成完結。爾後同地付近の警備。</p>		<p>通称号 英機第三七八〇六部隊</p>		<p>輜重兵第二二五連隊略歴</p>	
<p>連隊長 中佐 長井 洗</p>		<p>概要</p>		<p>摘要</p>	

0191

								昭 20	年 月 日	第一二五師団病馬廠略歴 通称号 英機第三七八〇八部隊
								8 7		
9	9	9	8	8	8	8	8	5 10		
隊長 獣医大尉 小川俊男 同地出発 黒河經由入「ソ」 吉林省吉林に移動 吉林第二〇三作業大隊に編入 通化において武装解除後現地応召者は解散 停戦 もつて編成完結。爾後同地付近の警備								軍令陸甲第一〇六号により編成下令 通化省通化において歩兵第二七五連隊からの転入者を基幹として現地応召者を	概要	
									摘要	

0193

至 自											昭 20	年 月 日	第一三八師団司令部略歴 通称号 不動第三七二六〇部隊	
10	9	9	9	8	8	8	8	8	8	7	7			概
18	20	19	15	28	23	19	15	11	9	30	10			
黒河経由入「ソ」 奉天出発 奉天において作業第三七大隊に編入 撫順出発、同日奉天着。 撫順において武装解除 現地応召者召集解除 同地において停戦 鉄道輸送により奉天省撫順に移動 日「ソ」開戦 結。爾後盤石付近の警備											軍令陸甲第一〇六号により編成下令 吉林省盤石において全滿各隊から編入の基幹要員と在滿応召者をもつて編成完	概要		

司令官 中将 山中 務

0194

昭 20											年 月 日	歩兵第三七七連隊略歴 通称号 不動第三七二六七部隊			
10	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8			7	7	
17	17	15	13	12	1	29	19	15	13	9	30	10	概	要	摘要
軍令陸甲第一〇六号により編成下令 吉林省盤石において機動一旅団から転入の基幹人員と在満応召者をもつて編成 完結。爾後盤石付近の警備 日「ソ」開戦 奉天省撫順に移駐 停戦 現地応召者召集解除 撫順中学において武装解除 撫順から新屯に移動、同地に集結 行軍により撫順を出発 奉天着（北陵） 奉天において第三九作業大隊編入 奉天出発 黒河経由入「ソ」															

0195

											昭 20	年 月 日	概 要	摘 要
9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7			
18	5	29	23	22	19	15	14		12	9	30	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令 奉天省双河鎮において機動一旅団から転入の基幹人員と在満応召者をもつて編 成完結。爾後双河鎮において警備 日「ソ」開戦 第二大隊は撫順に移動、第一三八師団長の指揮下に入り同地の警備八月十九日 現地応召者召集解除 主力双河鎮を出発、同日南雑木着 停戦 主力部隊の現地応召者召集解除 撫順に移動し同地で第二大隊を掌握。奉天出発。 奉天七条女学校において武装解除。 新民に移動 奉天移動 第四一作業大隊に編入同日同地を出発	

歩兵第三七八連隊略歴

通称号 不動第三七二六八部隊

十の外

58402

	10
	16
	黒河経由入「ソ」
	連 隊 長 少 佐 赤 尾 今 幹 雄

0198

昭和20年										年月日	第一三八師団挺進大隊略歴 通称号 不動第三七二七〇部隊
9	9	8	8	8	8	8	8	7	7		
16	14	30	20	19	15	12	9	30	10		概要
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令 吉林省新吉林において機動一旅団から転入の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。爾後新吉林付近の警備。</p> <p>日「ソ」開戦 主力は撫順に移動のため吉林出発。同日磯部少尉以下一二名は設営隊として奉天省新台子に向け吉林出発</p> <p>主力は撫順に到着と同時に永安小学校に集結。同日設営隊は新台子着待戦となる。</p> <p>設営隊は新台子出発撫順において部隊と合流。同地において現地応召者召集解除。</p> <p>撫順出発 新屯着、新屯小学校に集結、同時に武装解除 新屯出発、同日春天着 同地において主力は第三九作業大隊その他は同地編成の各作業大隊に分散編入</p>											概要
											摘要

0200

		10 9
		17 17
	隊長 大尉 吉住 龜吉	奉天出發 黒河經由入「ソ」